

不埒で前衛的なX-マス、後日談

話者表記：教主／ブルミ

効果音

ガチャッ——きいい……



ブルミ

ふう～、本気で週末農場に行かされるのかと思ったよ！



ブルミ

あっ、教主来たんだ？
こんな遅い時間まで帰ってこなかったなんて、何してたの？

教主

帰ってこなかったんじゃなくて、帰ってこられなかったんだよ……。
うう、腰が……。

教主

モナティウムがもう大騒ぎだったんだ。
通りには小麦粉が撒き散らされてるし、市庁舎はほぼ爆発したみたいになってるし、そのうえエルフたちはピリピリしてて、私を見るだけで「怖い！」って逃げるし……。

教主

私も手伝うつもりで、一日中小麦粉の片づけをしてきたんだから。



ブルミ

えっ、変な気配はなかったけど。何かあったの？

教主

聞いたところじゃ、セリーネっていう幽霊が、エルフたちが大嫌いなクリスマスを再現するイタズラをしたんだって。

教主

クリスマスが何かは知らないかな？
まあ、冬を迎えるお祭りみたいなものだと思うとすればいいよ。



ブルミ

よく分からないんだけど、冬を迎えるお祭りをイタズラで開いたら、街が壊滅したってこと？

教主

言い方は変だけど……まあ、そう。



ブルミ

ほんとエルフって、すごく頭が良さそうに見えたかと思えば、どこかネジが外れてるんだよね。

教主

その意見には全面的に同意するけど、エルフたちだって何の理由もなくあぁなってるわけじゃないんだよ。

教主

地球にいた頃の話なんだけど……信じられないことに、世界中の子どもたちに配るおもちゃを、休みもせず作っていたらしいんだ。

教主

エルフたちにとっては、クリスマスに子どもたちへプレゼントを配るサンタクロースっていうのが、怪物みたいな存在だとか何とか。



ブルミ

本当に？

教主

ん？



ブルミ

地球の話なんですよ。
教主がいちばんよく知ってるんじゃないの？



ブルミ

そのサンタクロースっていう怪物、本当にいるの？

教主

本当にいるのかって……。
小さい頃は信じてたけど、成長するにつれて自然と「いない」って思うようになったんだよね……。



ブルミ

じゃあ、エルフたちの言ってることは嘘なの？

教主

まさか！
あの反応、どう見てもリアルだったじゃん。
たかがそんな嘘のために、種族ぐるみでPTSDの演技なんてする？



ブルミ

じゃあ、いるってことだね。
人間って、地球にいるすべての子どもたちに、一日でプレゼントを配れるの？

教主

おかしいな……？
戦闘機に乗ったって無理そうなのに……エルフの技術でも使ったのかな？

教主

そもそも、ある程度以上の速度になると、人間の体じゃ耐えられないって聞いたけど。

教主

そのサンタって人、本当に人間なの？
人間じゃないなら何なんだろう。どんな存在で、何の目的で……？



ブルミ

教主？
何をそんなに真剣に考えてるの？

教主

もうその話はやめて。
私まで急にクリスマスが怖くなってきたから。



ブルミ

何それ、今「私だけ知らない」ってからかかってるんじゃないよね？

教主

こらこら、もうそのへんで。



ブルミ

まあ、私は自分の領分であるエーリアスのことだけ分かっていたら十分だし。
それで、その幽霊はどうなったの？

教主

昔作っておいたプロトタイプの幽霊捕獲装置を使って、ようやく捕まえたんだって。

教主

やっとのことで牢に放り込んだと思ったら、そこでもまた大暴れしたらしいよ。

教主

壊れた市庁舎の復旧作業をさせようとしたんだけど、セリーネが完全に「知るか」って態度だったみたいでさ。

教主

みんなそれで手を焼いてたところに、誰かが素手でこの騒ぎを片づけたらしいんだ。



ブルミ

誰が？

教主

ディアナ。



ブルミ

……………。

教主

聞いた話だと、イタズラしてる時はセリーネがディアナに乗ってあちこちしてたらしいよ？

教主

なんで乗られてる間はじっとしてたのか分からないけど、エルフたちと対峙してる最中に、いきなりガバッと起き上がったかと思ったら、笑顔のままセリーネをずるずる引きずって消えていったんだって。

教主

その笑顔から感じる圧がすごすぎて、誰もとても止めようなんて思えなかったらしいよ。



ブルミ

……大丈夫、だよな？

教主

さあね。



ブルミ

教主、私もクリスマスが怖くなってきた。



ブルミ

この話、もうやめよう。

教主

そうだね。
世の中には、考えないほうがいいことってあるもんね。

教主

灯りを消して寝よう。おやすみ、ブルミ。



ブルミ

うん……。

翻訳・整形版